



十二月七日、新潟市『NSG学生総合プラザ』四階で『一〇四七名解雇撤回！早期全面解決をめざす12・7新潟県集会』が開催され県内各地から187名が結集しました。

十三時三〇分より司会あいさつで開会し主催者を代表して宮下県評議員のあいさつ、記念講演では加藤晋介弁護士からありました。



NO. 650
発行
08・12月22日
国鉄労働組合
新潟地方本部
発行責任者
守橋久仁雄
編集責任者
教宣部

団結を強め解決へ

被解雇者からの訴え

闘争団からは、函館・音威子府から、そして全動労争議団からの代表からそれぞれ現状と訴えがありました。

その後、アピールの提案を国労地本関川書記長からありました。カンパの提案は、上越共闘会議

12・7国鉄闘争
新潟県集会開く

カンパ72116円



主催者あいさつ
宮下弘治
元県評議長

1047名の解雇撤回の闘いは22～3年前から始まっている。各地域の支援

共闘の代表も参加している。国労中心とした集会在成功し喜んでいる。県評が解散し20年以上前、当時の地労委の労働者側委員として全面解決に向けて闘ってきた。20年間の闘いは国労の組織力だけでは闘い続けられなかった。闘い続けられたのは、国労の労力もあるが地域の支援共闘が生まれたからだと思う。

1047名は解雇された状況の中、不当労働行為に対し家族もささえてきた事が今日を迎えることになったのではないか。不当労働行為に対し全国各地の地労委で勝利していった。そして地労委から中労委へ場が移っていった。そして中労委から裁判へ闘いが移った。

闘争団は56歳以上が4割をしめている状況だ。南裁判長の発言から何とか政治解決へ進めていきたい。早期解決をめざすこと。当事者の意見を守っていく。その要求を進めていくこと。それが解決へと進めていくものだ。政治的場面も活用しながら、闘争団の意志を解決への道筋にしていく。闘争団の意見を最大限尊重して勝利に向かって闘っていく。



から『二十二年長い闘いになっていくこと。最後の闘いとしてカンパ要請する』と訴えがありました。カンパ贈呈は、中村洋二郎弁護士からおこなわれ『いただいた連帯の貴重なカンパ。これから闘

《七万二千百十六円》の会場からのカンパが送られました。



争団、家族へ活用できると思う。これ以上、引き伸ばすことはできない。逃さない集中した闘いを進めていこう」とあいさつがありました。

187名結集



閉会あいさつ・団結がんばろうは、建交労本部の杉崎雄喜委員長から『ようやく出口の明かりが見えてきた。歩いていけば確実に出口へ進んでいく。新たにがんばる決意をしている』とあいさつあり、最後に、力強い団結がんばろうを行いました。



訴え



函館闘争団坂野隆司副団長

闘いは22年間、新潟の仲間に対して17年間支援していただいている。ありがとうございます。20名で発足し現在17名になった。平均63歳になった。来年50歳代は4人しかいなくなる。まだ解決しない。全国の仲間をはじめ、新潟に結集する力がささえている。

国鉄闘争～解決するため36闘争団、1047名全員が団結しなければ解決しない。四者四団体がひとつになり我々が解決水準を高めていく闘いをしていく。前面に出て、いかにこの状況で水準を高めていくのかだと考える。

12月1日、函館で全動労と集会を開催し団結を強めることについて意思統一した。10・24中央大集会は大成功だった。妨害をはねのけてがんばっていく。残された短い期間、最後の闘いを進めていく。闘争団の問題だけでなく、格差問題など、すべてが国鉄闘争と同じだ。全労働者の問題としてがんばっていく。



音威子府闘争団 杉山均事務局長



22年は一言で言えば簡単だが、今年50歳を迎える。当時、子供だったが結婚し子供がいる歳になる歳になった。子供の行事に出られなかった。子供の行事に出られなかった。解雇された当時は1500人の地元村に職が無い状態だった。国労に対して攻撃が多く仕事ができない厳しい実態だった。毎月14万円の貸付金で生活している。ささえがあったからこそ闘うことができた。解雇撤回JR復帰の要求は譲れない。1日も早い解決をめざしていく。3本柱は何一つ譲れない要求だ。平均52歳、一番若い団員は46歳。全面解決に向けてがんばっていく。

全動労争議団 渡部謙三副団長



南裁判長や国交大臣の発言など解決に向けた話し合いをつくる。大臣発言は踏み込んだ発言だ、もう一歩だ。もう一分張りのご支援をお願いしたい。

